先月号に引き続き、テキサス音楽のお話です。今月号では、テックスメックス音楽、テキサス・ブルースに引き続き、カントリー&ウェスタン音楽、ジャズ音楽、ロック音楽のご紹介です。お楽しみください。（編集部）

カントリー＆ウェスタン音楽

テキサスのカントリー・ミュージックも、非常に重要な役割を果たしています。ヒルビリー・ミュージックは後にカントリー&　ウェスタンに統合されますが、1930年代に、Bob Wills & The Texas Cowboysが登場します。彼らはドラマーやギタリストにアドリブ・ソロを競わせながらウェスタン・スウィングと呼ばれる洗練されたダンス音楽を作りだし、後のロカビリーに大きな影響を及ぼしています。

1970年代になると、カントリー・ミュージックのレジェンドともいえるAbbot出身のWillie NelsonとHouston出身のKenny Rogersが登場します。Willie Nelsonが、盟友であり同じテキサスのLittlefield出身のWaylon　Jenningsと共に、カントリーの聖地ナッシュビルで作られる保守的で産業的なサウンドに迎合せず、独自にカントリー・ミュージックをやろうという動きで、ロックやフォークといった新しい音楽を取り入れつつ、新たなスタイルとなるアウトロー・カントリーと呼ばれるスタイルを作り上げ人気を博します。

毎年3月に開催されるロデオでもカントリーの出演者が一番多くいることから、テキサスで最も愛されている音楽ジャンルともいえましょう。

ジャズ音楽

筆者の敬愛するOrnette　Colemanも、実はテキサスの出身になります。Fort Worth出身のOrnette ColemanはNew Orleansでテナーサックス奏者として音楽活動を開始しますが、Baton Rougeでの公演後に暴行を受けて愛器を壊されてしまったことから、アルトサックスに持ち替えます。その後、Rockdale出身の偉大なるブルース音楽家であるPee Wee Craytonと共に西海岸に進出、数多くの演奏を残しながら1959年の超名盤The　Shape of Jazz to Comeの録音に至ります。その後も数多くの名盤・名演奏を残しますが、惜しくも2015年にニューヨークで亡くなられています。

彼がキャリア後期に組成したPrime　TimeのドラマーであったRonald Shannon JacksonもFort Worthの出身です。ぶっといサックスのサウンドでAretha　Franklinの伴奏を行ったり、自らのバンドでファンを魅了してきたKing Curtisは、Ornette Colemanと同じ高校で切磋琢磨したといわれています。

ちょっと年齢は若くなりますが、King Curtisのバンドでギターを弾き、その後セッションミュージシャンとして名を成したCornell DupreeもFort Worthの出身になります。彼の参加したStuffは日本でも大変高い人気を誇ったバンドです。

フュージョンの奔りともいえるCrusadersもメンバーの多くがHoustonの出身で知られています。1974年に発表された白熱のライブを捉えた名盤Scratchでは、出身地と共にメンバーが紹介されています。これは、ライブでのMCとしては、史上最も格好の良いメンバー紹介として多くの人に愛されています。

他にも、Galveston出身の名ギタリストLarry　CoryellもRockとJazzの懸け橋として多彩なギターを聞かせてくれます。

縮毛矯正で髪を失ってしまったことから自らCleanheadと名乗っていたEddie　Vinsonは、BluesからJazzと多岐にわたる曲で活躍しました。Cherry Red、Kidney Stew Blues等はJump Bluesの名曲として多くのファンを未だに魅了しています。一時はバンドメンバーにJohn Coltraneを招き入れるなど多様な音楽性を持ったアーティストであったといえます。

Jazzを上手く取り入れた曲を、繊細な歌声で歌い上げるNorah　Jonesの生まれはニューヨークですが、3歳の時からGrapevineに転居、そこで音楽を始めます。実は、彼女の父親はBeatlesにも多大な影響を与えたインドの最も有名な音楽家ともいえるRavi　Shankarですが、離婚後は母親と共に生活していましたので、どこまでその影響があったかは不明です。彼女自身もインタビューではBilly Holiday、Bill Evansといったアメリカのジャズ音楽からの影響を多く語っています。昨年もNew Orleans Jazz & Heritage Festivalで素晴らしい演奏を聞かせてくれました。

ロック音楽

ロックの観点からは、先ずは初期ロックンロールを作り上げたBuddy Holly。Lubbockの生まれになります。Buddy Hollyは多くのロックの名曲を歌い上げBeatles等に多くの影響を与えていましたが、飛行機事故で22歳という若さで命を失っています。その後も多くの音楽家が彼の曲をカバーしたり、Musical/映画で取り上げられたりと、その影響力は今もっても極めて高いといえます。

同時代のテキサス出身音楽家であり、“Oh　Pretty　Woman”で有名なRoy OrbisonはVernonの出身です。同名のヒット映画でも使われましたし、Van　Halen、木村カエラさん等多くのカバーも存在します。彼のソングライティングパートナーであったBill　Deesから、昔、私が一緒に働いていた掘削技師の友人を通して、「いきなり日本から多くの著作権料が入ってきたので調べてほしい」との問い合わせがあり、調べたら木村カエラさんのCDの売上だったという経験を思い出します。

The 13th Floor Elevatorsという知る人ぞ知るバンドが1965 年にAustinで結成されます。ドラッグや東洋思想に感化されたサイケデリック・ロックを展開しますが、その音楽を世の中に出していくのに大きな役割を果たしたのが、当時Houstonで設立されたInternational　Artistsというレコードレーベルでした。。本レーベルは12枚しかレコード出さずに営業を終了してしまいましたが、他にもRed　Crayola等、印象的な音楽家・バンドを排出しています。Red　Crayolaのリーダーであったmayo　ThompsonはHouston出身で、その後イギリスに渡りPost Punkの大きな礎となっていきます。

また、同年代のヒッピーカルチャーで活躍したJanis　Joplinは、27歳という若さでこの世を去りましたが、ヒッピーカルチャーを象徴する破天荒さを持ちながらも強い音楽性に支えられた歴史に残る音楽家といえます。彼女はPort　Arthurの出身で、Texas大学Austin校に進学しますが、ドロップアウト、カリフォルニアに渡って大成功をおさめます。

他にもZZ　Top、Dixie Chicks（現在は名前を変えてChicksとして活動中）等魅力にあふれるロック音楽も多くあります。

テキサスには、良質な音楽を広め続けてきたAustin　City　Limits、最近ではすっかりイノベーションイベントとなってしまったSXSW等、テキサスの音楽振興に大きく影響を与えてきたイベントもあります。そして、テキサス人の音楽好き、多様な人種・文化の坩堝であるテキサスならではの音楽の進化によって、素晴らしい音楽が生み出されてきました。過去はもちろん、今後の「愛すべきテキサス音楽」の進化も楽しんでいければと思います。

Breakfast Klubで順番を待つ客

最後にHoustonといえば忘れられないBeyonceについて。Destiny Childでデビュー以来グラミー賞の歴代最多受賞記録とノミネート記録を持っており、2023年時点で88回のノミネートのうち32回受賞しています。彼女がヒューストンを訪問する際、必ず立ち寄るレストランがあるとか。ミッドタウンにあるThe　Breakfast　Klubというソウルフードレストランで、フライドチキンが有名なのですが、いつも長蛇の列で、全く入る余地がありません。少しでも空いている＝待ち時間の短いチャンスを見つけて一度は行ってみたいものです。

（北米三菱商事　相澤稔）